DEIシリーズ その1

日本技術士会のシンカを支えるDEI委員会

DEI Committee to support the IPEJ's "SHINKA"

前澤　峰雪
MAEZAWA Miyuki

1 はじめに

「日本技術士会DEI推進宣言（以下，宣言と記す）」が2025年4月に策定された。DEIとは，多様性（Diversity），公平性（Equity）及び包摂性（Inclusion）を指す。日本技術士会（以下，本会と記す）は，「多様・多彩な技術者，技術をつなぐプラットフォームとして，誰もが能力を発揮し，誰もがその人らしく生きられる社会の実現に貢献」することを目指し，今後，各組織及び各会員が基本方針「3つのシンカ（1．意識の深化，2．仕組みの進化，3．社会貢献で真価）」に沿って計画・実践の段階に入る。これに伴い，男女共同参画推進委員会（以下，男女委員会と記す）は2025年7月にDEI委員会へと改称して再設置され，本会の「シンカ（進化）」の第一歩となった。

本稿では，宣言の策定に至るまでの舞台裏を紹介するとともに，本会における今後のDEI委員会の活動について記す。

2 男女共同参画推進委員会の成果と課題

DEI委員会の前身である男女委員会は，2011年に個別規定に基づき，女性技術士及び女性会員の増加に向けた活動と男女共同参画の推進を目的として設立された。長年の技術サロンやDEIフォーラム等の継続開催により，女性技術士の増加に貢献してきた。技術士第二次試験の女性受験者数は2015年頃から増加し始めた（図1）。しかし，技術士に占める女性比率は2011年度末の1.4％から2024年度末に2.7％への微増に留まっており，本会には男女委員会単独で進めてきた従来のやり方を「シンカ」させる時機が到来した。

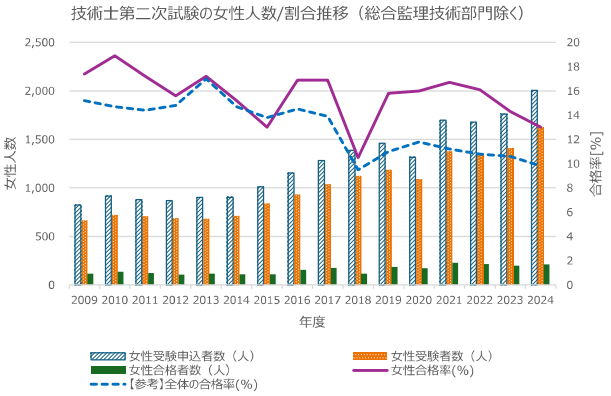

図1　技術士第二次試験の女性人数／割合推移[1)]

3 DEIをめぐる社会動向

2011年から現在までを振り返ると，スマートフォン普及やIT技術の進展を背景としたグローバル化やSDGsの誕生，団塊世代の大量退職，コロナ禍前後の労働環境の変化等を経て，日本でもD&Iを目にすることが増えた。2020年に日本経済団体連合会が発表した「ポストコロナ時代を見据えたダイバーシティ＆インクルージョン推進」に関するアンケート結果では，D&I推進と危機対応力には一定の相関関係が見られることが示された一方，D&I推進の阻害要因として，社会制度とアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）にも分析が及んだ。

近年は，多様性を受容する社会の実現には「不均衡」の是正が必要との考え方が広く提唱されている。この「不均衡」はジェンダーに限らず，年齢や障がいの有無，国籍や家庭環境等様々な事情を含む。これらの「不均衡」に気づき，その上で社会制度を是正していくことが望ましいが，先に積極的是正措置として仕組みを変えることも有効である。クオータ制（性別などを基準に一定の数・割合を割り当てる制度）がその一例といえる。

4 DEI推進宣言プロジェクト，発足

上記に述べた活動主体の課題やDEIをめぐる社会動向に鑑み，男女委員会の飯島玲子委員長の「本会としてDEIを推進したい」という熱い思い

のもと，男女委員会からの有志による「宣言検討プロジェクトチーム（以下，PTと記す）」が2024年4月に結成された。キックオフでは，女性技術者育成に留まらず，男性にもジブンゴト化する建て付けや，本会の他組織からの意見収集，技術士倫理綱領・組織行動規範との整合性，本会幹部層のコミットメントの必要性等が議論された。宣言を2025年3月に策定するという目標を定め，大まかなスケジュールを立てた。

なお，このキックオフで「Toxic Masculinity（有害な男らしさ）」が話題に上った。この言葉は，自他を害する過剰な男らしさへの執着を指す。男性の生きづらさに影響するアンコンシャス・バイアスといえる。

5 「3つのシンカ」ができるまで

第2回のPT会議以降は，社会動向や本会の現状と課題について分析を進めた。目指す姿とそれを実現するための基本的考え方については，個人ワークと担当班での検討を組み合わせて案を作り，夜なべのPT会議でブラッシュアップしていった。ある程度宣言案が出来上がったところで，本会幹部層との会議で複数回討議した。これと同時並行で，秋から冬にかけて本会の倫理委員会，海外活動支援委員会等の複数組織と意見交換を実施した。

社会動向および本会の現状と課題については2～3章の通りである。本会は50代以上の男性が多くを占めることから，本会の他組織との意見交換を通じて，「20～40代の若手や女性が少な過ぎて，アンコンシャス・バイアスに気づきにくい組織」である可能性が高いことに気づいた。その一方で，本会の自慢すべき2つの特長にも気づけた。

写真1　初回幹部討議での現地記念撮影

① 国家資格を持つ優秀な技術者が集う場

② 21技術部門を集約し，横断的交流が可能

これら①②を合わせ持つ団体・組織は，他に類を見ない。本会は日本の技術プラットフォームとして機能できる素地を十分に備えており，残るは我らの存在意義（真価）を発揮するための足りないピースを足すのみ…。そう気づいたときに，キャッチコピー「3つのシンカ」が天から舞い降りた。そして，アンコンシャス・バイアスを軽減する「意識の深化」，制度・体制を是正する「仕組みの進化」，さらに本会の強みを活かして「社会貢献で真価」，という基本方針へと昇華を遂げた。2025年2月には会員パブリック・コメントでの731件の意見を反映し，宣言最終案を練り上げた。

6 シンカする日本技術士会とDEI委員会

多くの討議を通じて生まれた「3つのシンカ」は，今後，本会を変革していくだろう。本会の各組織員はアクションプランや目標を作り，計画的に実践する段階に移行する。「3つのシンカ」は誰かが“やってくれる”ものではない。技術士なら息をするようにやっている「計画，研究，設計，分析，試験，評価またはこれらに関する指導の業務」の題材がDEIになっただけで，ジブンゴトとして取り組むことが必要だ。

今後，DEI委員会は，DEI推進に必要な情報収集，整理，共有を担う。加えて，各組織の特性に応じ，アクションプランの作成や実践が進むようサポートに力を注ぐことで，本会の「真価」の発揮に貢献していきたい。

＜参考文献＞

1）技術士試験合格率（技術士試験センター提供データを元にDEI委員会作成。数値は委員会HPで公表）
https://www.engineer.or.jp/c_cmt/danjyo/topics/002/attached/attach_2323_4.pdf

前澤　峰雪（まえざわ　みゆき）
技術士（機械／総合技術監理部門）

DEI委員会　広報小委員会小委員長
京セラコミュニケーションシステム（株）
e-mail：miyuki-maezawa@kccs.co.jp